

125

特244

711

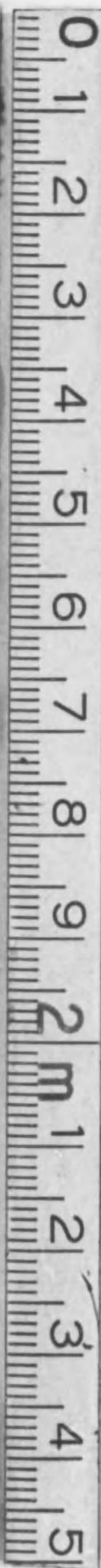
危機に立つ国際政局

社會大衆黨出版部發行

改訂版

3

8



始



特244
711



社會大衆黨パンフレット第八輯

危機に立つ國際政局

社會大衆黨出版部



序に代へて

一、我黨は昨年六月龜井、阿部、平野、渡邊、松永の黨の代表五名を支那、滿洲に派遣して、風雲急を告げつゝあつた極東の國際情勢を現地について調査せしめた。それは一つは黨の中心使命とする國內改造の問題が極東の國際政局の變化と切り離すことが出来ないことゝ、革新國民外交方策を提唱する黨の政策を更に具體化し、發展せしむるため實地に支那、滿洲の情勢を調査する爲めであつた。

二、この視察團は歸朝後直ちに實地調査報告書を發行する豫定であつたが、支那滿洲に於ける一時的なる而かも部分的なる報告書は蓋し意味なきものと考へたので、この計畫を中止し、視察團の得たる知識と情勢とを基礎とし、更に、今日の全般的なる國際情勢の批判報告を作成した五、本書の草案中には、ソヴェート聯邦の情勢の中に、昨年八月モスコに開催された第八回コンミンテル大會の世界政策の主要が収録されてゐた。之れは國際共產黨の外交方策を知る上に極めて貴重の文獻であつたが、特に今日の場合削除せざるを得なかつた。この點讀者各位並に筆者にお詫びする次第である。

三、即ちこの小冊子は支那滿洲視察團の報告書であり、又同時に我黨の國際情勢に對する認識である。

四、更に今回の總選舉戰に於ける黨の外交政策の解説書である。

六、本書の執筆は視察團の共同責任であるが、特に龜井團長の勞をわすらはした。

昭和十一年一月

編者識

危機に立つ國際政局

目次

序に代へて……………一

外交政策……………二

各國の世界政策と我國外交の貧困……………五

外交の方式と現段階の世界政策……………七

外交の再建……………八

再建の順序と目標……………九

世界政策實踐の第一歩……………一〇

最近の世界情勢……………一〇

一、亞米利加……………一一

二、佛蘭西……………一六

三、獨逸……………一八

欠

四、英吉利	二二
五、伊太利	二二
六、英伊對立	二三
七、蘇聯	二三
支那に於ける諸傾向と其の綜合的動向	二四
我が現對支政策の再檢討	二六
一、二 様性	三四
二、間島共産地帯	三四
三、支那農村問題	三六
四、輓近の我が對支外交	三七
	四二

—(目次了)—

欠

● 國民生活の一定の發展的展望に基礎づけられつゝ、世界への一定の貢獻をみいださんとする所の、外交政策の謂である。

近き過去に於ては、英佛の「聯盟」外交、亞米利加の不戰條約外交、又ソ聯の所謂「國境外交」と謂へる處の不可侵條約外交等であつて、而して、その最近に於ける發展は佛蘭西の「聯盟外交」と「歐洲の金ブロック外交」英吉利の「聯盟外交」と東洋に於ける「ボンド外交」。「亞米利加の不戰條約外交」聯盟に加入したることによつて、英佛の聯盟外交と聯關を持つ所の、蘇聯の國際聯盟外交とその不可侵條約外交と支那に於ける「コミンテルンルート」（支那赤化戰線）の三本立の外交等みなこれである。

然るに我が國には國內の問題を解消し、合せて國際生活の問題を解消する所の外交のイデオロギ―に未だ統一せられ、確立せられて居らない。極言すれば、現在我國の支配勢力に於ける外交には世界政策がないのである。しかも前述の如く、外交が重要性を加へつゝある時に當り、我が國の世界政策は確立して居らないのである。我國外交の不振と貧困と、低調とは甚だしきものがある。我が民族の問題を内に解決し、外に解決せんとする、將來への展望への自信は、支配勢力の何處にも發見することが出来ない。見える所のものはバラ／＼にし、繼ぎ接ぎだらけのものである。自由主義的に當面の一つ一つのトラブルを、利那的、糊塗的に解決するの方式を辿つて

ゐるに過ぎない。

何故に我々は現代の外交を低調と謂ひ、貧困と言はねばならないか？

(イ) 我が國では外交とは、外務省の官吏が問題の起つた時に、ジエネバやテリへ赴いて演説をしたり、追隨をしたり、特に尻をまくつたりすることだと考へてゐるらしい。かゝる事務外交、かゝる技術外交を外交と考へてゐる。されば歴代の外務大臣は凡てかゝる技術家の間から出てゐるのである。

(ロ) 我が國外交を非難するものは、先づ「強硬外交」「軟弱外交」とを言ふ。「三宅坂外交」と「霞關外交」とを云々する。その依つて來たる所は、凡てかゝる事務外交、技術外交を外交の凡てとする所の謬見に基く。此處に世界の平和と人類の文化、福祉に對する理想があり、此處に世界政策があり、それに伴つて外交的戦術、戦略があるならば、此處に「三宅坂」も「霞關」の外交も凡て一元化せられる。かゝる事なきの故に、いはゆる外交を霞關の技術外交とすれば當然に對外交渉を持つ軍部の國際工作と時に並立し、時に對立し、時に矛盾し來たる。又外交を軍部の國際工作の素朴なる遂行とのみ考へる場合に、當然に外交機關を有する外務省の事務外交と、特に並立し、時に對立し、時に矛盾し來る。此處に所謂二重外交の非難が發生をする。對支政策に關する限り、九月末の四省會議に於いて、この矛盾は一應克服せられかかるの觀があるが、後段述ぶるが如く、根本的には何等の解決に至つて居らない。それ故に此處に強硬外交とか軟弱外交が生れる。外交がサーベルの鳴る所の三宅坂に偏向したならば、内田焦土外交の如き素朴なる武斷外交、強硬外交となり、外交が昔の霞關に保存される時には幣原追隨外交の如き官吏の

技術外交、軟弱外交となる。三宅坂と霞關の兩存の場合には、廣田協和外交となる。そして軍部と外務に於ける對支政策の見透しに就て、殊に蔣介石政權の北支自治工作、南京政府の容共聯軍政策の見透しに就いての食ひ違ひとなる。

(ハ) 斯の如き小乗外交の故に、我が國では繼續して遂行せらるべき外交國策を有しない。其處には、霞關には歐米追隨主義のみが存する。これこそ我が國の外交六十年の傳統であり、霞關外交官の骨の髓まで浸み込んだイデオロギーである。而して追隨外交は強大文明國の又獨立不羈の民族の、高揚發展的國際方針ではない。それは屬領の、小國の國際生活の哲學である。又所謂軍部には確固たる大陸政策が存する。これこそ軍部六十年の傳統であつたのである。我が國軍部の骨の髓まで浸み込んだイデオロギーであつたのである。然乍らそれが大陸の民衆生活の、政治的及經濟的再組織に就ての科學的具體的分析を伴はざる場合に於て單純素朴なる放牧民族の哲學となる。

(ニ) されば我が國の外交は、これを一言にすれば、技術家的追隨外交と、確固たる大陸政策のкокテールである。それは小乗外交である。故にこそ、種類なき外交の貧困と、外交の低調が存するのである。

二、外交の方式と現段階の世界政策

外交は斯の如きものではない。あつてはならない。外交は一國國民が外、世界人類の福祉に貢獻せんとする大乘的偏理的信念に基いて國際生活に貢獻せんとする意思力と共に、内、國民の大衆を

明確なる目的意識と發展的氣力の基礎の上に組織する所の工作である。従つてそれは、國民それ自身の運命を自主的にデザインした計畫の實行である。即ちこのデザインこそは、所謂世界政策である。外交とは國民の永遠性を基調とする所の一定の世界政策の實踐的遂行である。かゝる見地に立つ時、外交は外務省は勿論のこと、陸海軍省も、内務省も、凡ての官廳が工作部分となつて動員され、その背後には國民の目的、意識的、大衆的、行動的支持が存する。従つて外交は比類なき柔軟撓屈性を有すべく、此處に強硬と軟弱の對立、三宅坂と霞ヶ關の二重性が解消する。而してかゝる外交の背後に國民が存する。それが國民外交である。

現在、一九三五、六年の危機が喧しく論ぜられて居る。この危機を外交工作によつて打解するか、軍部工作に訴ふべきの論が、昭和八年九月、五相會議に於いて論ぜられ、廣田外相は昭和九年の議會に於いて之を外交國策に訴へると言つてゐる。吾人をして言はしむれば、かゝる言は結局ナンセンスである。

我が國外交が、今日の貧困と低調を離脱し、一つの世界政策を國民的規模に於いて確立し得るならば、一九三五年六年の我が國民の國際生活を、外交工作によるか、軍事工作によるかの如き愚劣なる論議はあり得ない筈である。國民の永遠性を基調とする所の世界政策の遂行に於いて、武力は原因にあらずして結果である。常に原因でなくして結果であらねばならない。その世界政

欠

欠

法論に改革性を與ふることが第二步である。

人種平等、資源開放、移動自由、東洋被壓迫民族開放等、極東民族振興工作に先驅する所の革新的國民外交政策こそは、我が國の世界政策であらねばならない。この革新國民外交は單なる自國本位の世界政策に非ずして、地球の暗黒面に光明を投じ、搾取遺棄せられたる弱小民族を國際的水準にまで押上げる所の人類意志に基く聖戰である。その結果が偶々我れ自らをも利するであらう。重大なのはこの歸一する點である。蓋し一定國民の輝かしき永遠性は、その發展の方向が雄大なる人類意志の線に添ふた時にのみ確保せられるからである。而してこの革新國民外交の樹立は必然的に極東民族に對する、在來の歐米資本主義の番犬的態度を、壓迫的態度の一點を前提とし、更に又我が大陸政策が、大陸の民衆生活の政治的、經濟的再組織に關する改革性を付與することを前提とする。

五、世界政策實踐の第一歩

かゝる世界政策の樹立と、その斷乎たる遂行は、我國民の背後に全極東民族が動員せられるのである。否世界有色民族が動員せられるのである。然る時、世界の如何なる國が牽制ブロックを結成してかゝらうとも、斷じて打勝ちがたきものとなる。匹夫もその魂を奪ふべからず。況や自

他民族の魂を高き民族相愛の倫理性の中に求めれば、互ひに崑崙山脈の天嶮によつて東洋を劃し太平洋沿岸に胸壁を連ねて亞細亞の侵略者を撃滅することが出来るのである。然乍ら、このことは元より世上謂はれる處の好戰主義の謂ではない。各民族の文化建設能力に對する、公平なる資源の分配——これは既に亞米利加のハウス大佐、或は亞米利加政治學者トムソンの説く所であるが——資源の再配分、資源開發の自由、移住貿易の自由、世界被壓迫民族の開放、世界民族の平等の段階的平和的處理を建前とする。この推進力は人類社會進化の必然の法則である。而して又是等の上に打ち建てられるものが、人類の文化を通じ、歴史を通じて希求して止まざる世界の平和であらねばならないのだ。

六、輓近の世界情勢

輓近の世界情勢を顧みて、更に我が世界政策が何であらねばならんかを規定しなければならぬ。従つて現實に則して、我々は世界情勢を顧る。

伊太利とエチオピアは、今や交戰状態にある。何の故にムツソリーニが三十萬の軍隊をエチオピアに動員し、斷乎として植民地戰爭を實行しつゝありや。この理由を分析することに於いて、我々は現下世界情勢の大觀を鳥瞰することが出来る。我々がムツソリーニ首相の意中に這入つて

付度するならば、恐らくムツソリーニは亞米利加、佛蘭西、英吉利、獨逸の意向を重要視する必要なしと考へてゐるが如くである。

(一) 亞米利加

米國財界が、その資本主義政治經濟の矛盾の故に、巨大なる都市失業群と、農村の恐慌を來したことは既に歴史的事實である。其頃日本から旅行する者が、停車場へ降りるや、自動車に案内し、扉を開け乗車せしめて、扉を閉める紳士があつた。だが紳士はそれだけの勞力に對して、白い洗濯したカラーを付けたる堂々たる紳士が、手を出だして惠みを求めるのだ。いふ處のハワイト・カラー・ベツカーである。かゝる失業群の簇出は邦人旅行者の疾くに目撃せる所であつた。斯如き大衆購買力陥没に對するルーズヴェルト大統領の政策は、資本主義の修正と、勞働者、農民無産市民に對する讓歩であつた。即ち勞働組合の公認、勞銀の釣上げ、農産物價格の釣上げ、農産信用の供給等、所謂N・R・A及びA・A・Aの一連の政策であつたことは、餘りにも有名である。その結果は米國に一應の景氣安定を招いては居る。然乍ら、この安定が更に一步、社會的統制經濟への發展か、或は自由主義經濟への逆轉へかの岐路に立つことは、決して遠くはない。米國識者は既にこれを意識して居るとみてよろしい。三年に亘る米國の不況の後に、米國民衆の唯一の關心は、亞米利加に革命來るや否やに存した。かゝる觀察は、米國景氣、一應の安定によつて、

一應は解消したかの観があるが、本質的には、單に、問題解決の時機を延ばして居るにすぎない米國經濟界は後述するが如く未だにルーズヴェルト大統領の資本主義修正政策の効果の後半の段階を辿つてゐるにすぎないのである。この間に於いて自由主義經濟の昔に復歸せんとする保守派の一派が、大統領の諸法令に對し、米國憲法は資本主義を擁護すべき建前であるに係らず、これを修正せんとするは、憲法の違反なりとして、その諸法令の無効を訴へて、ヒューズ大審院判事が、これを支持し、法令無効の判決をなしたることは、既に周知のことである。現在米國の景氣は、之を「景氣回復」乃至「財政改善」と見る見方よりも、フウヴァー大統領當時のいはゆる「繁榮」と見る見方が有勢であるかの如くである。然乍ら、これが單に問題の解決を遷延してゐるに止まるといふことは、米國現在の景氣の分析によつて明かとなる。現在の景氣一順の後に米國政府の執るべき政策、それ自體が極めて重要となり來るのである。

米國經濟に就て、最近のその指標を見れば、一二の特種の原因を有する例外を除けば、殆んど全般的の好轉を示してゐることは事實である。洋灰、織維工業を除く重要産業生産活動の好轉、鐵道の荷動きの漸増、百貨店通信販賣等、小賣價格の釣上げ増加、物價の協調、農村購買力の著増、政府支出の増加、金保有額と、銀行預金の著増、同じく未曾有の金利安、事業會社の利益増等が、これを物語つて居る。だが右の如き指標の好轉は、大部分現在までの景氣効果を實證する

に止まる。必ずしも今後の發展を約束するものではない。今後の動向をみる時に、何よりも先づ今日の米國景氣の波が、一體何を中心として動いてゐるかを吟味することの必要がある。

顧みるに一九三三年の中間景氣を除き、ルーズヴェルト大統領就任以來、多少なりとも米國の景氣を好化せしめたる原因が、現在までの自由主義的政治回復にありとみらる事は殆んどない不可能是である。大部分はルーズヴェルト大統領の經濟政策に歸することが出来ると言へよう。其の勞銀政策、農産物減産と補償買上げによる農産物物價の引上げ、及び大規模公共事業の實施等による農民労働者の大衆消費力の増進が、最近までの經濟活動を支配せる最大要因であつたのだ。このことは過去二年の生産活動が織維工業、雜貨等の大衆日常消費の對象となる事業に局限され生産業は依然たる不振を續けて來た所のことによつて明である。このことは先きのN・R・Aの違憲問題、又最近のA・A・Aの危機等、ルーズヴェルト大統領政策に對する資本家の驚々たる批難に係らず、否定せらるべきではない。

然るに、これまでの景氣好轉を齎したるルーズヴェルト政策は、これ以上最早倍大強化する事が許されなくなつて來てゐる。即ちN・R・Aの崩壊によつて、労働者に對する直接の操作が一頓した。又A・A・Aは急激に崩壊しないとしても、棉花融資額が、從來の十二仙からこの度の十仙に引下げられたことによつて、明かなるが如く、米國の物價と世界物價水準との均衡上、現在

以上の引上げ政策の強化は如何なる技術によつても不可能なるのみならず、逆に徐々としてこれを引下げるの必要に迫られてゐるのである。而して財政インフレーションも大體飽和點に達してゐるものとみられる。現在の如き景氣が維持乃至發展すれば、財政インフレーションの必要はそれだけ減少するわけである。又軍事費が今後増大する事は一方に於いて公共事業費の削減となつて現はれるのだ。故に財政インフレーション全體としては、最早や、これ以上の膨脹は望み得ない事情にある。

右の如き情勢の下にあつて、若し米國に好景氣が更に到來するとするならば、それは所謂米國資本家の一連が手を頼にして夢みてゐる所の、經濟自體の自力的回復自由主義的回復によると云つても差支はないであらうが。事實に於てこの方面の景氣は期待し得ない。それは消費購買力が今日まで、自力以上に人爲的に引上げられて居る事情に徴して明かである。

然らば今後、多少持續し得る景氣は、何であるかと云へば消費購買力の發展による第一次景氣によつて齎らさるゝ處の、即ち第二次的の生産財購買力の増大による景氣以外の何者でもない。今日までの米國財界の所謂好轉とは端的にこれを言ふならば、ルーズヴェルト政策によつて發展したる消費購買力の引上げに伴ふ、二次的なる生産財力増大の基調が存する。

顧るに一九二九年以後の米國の不況は、その範圍に於いても、深度に於いても、更に期間に於

いても、未曾有の大規模のものであつた。而もそれまで、歐洲戦後の萬年景氣の美酒に酔つたる米國の資本家は、大部分の利益を社外分配に振り向け、社内蓄積、設備の償却、生産設備の更新を疎かにして居つたのだ。これが全般的資本主義經濟の矛盾の暗礁に乗り上げたのである。大不景氣はかゝる放漫經營の眞唯中に襲つて來た。米國産業の大多數が生産設備をそのままに放置し現在に到つたことは當然である。しかのみならず、その後ルーズヴェルト大統領政策があつたが、政府統制に對する不安から企業家は、その日暮しの手當をなし、必要なる設備の改善を怠つて居つた。

かゝる設備の全般的老廢化は現在（一九三五年一月）米國に存在する既設機械の六割五分が十年以上の年數を経たる古るいものであると推定せられる事で證明せらるゝ。斯くの如き生産設備を代換し整備する事が、過去の一二年に於ける事業會社の利益増による餘力を以つて、信用力の増大、金利低下等の條件に恵まれつゝ、N・R・A崩壊以來、資本家の人氣回復を機會として、漸次規模を大にして遂行せられて居るのである。かゝる生産設備の代換が一種の藝術味を伴つて起りつゝある事實は自動車等に於いては流線型の利用なり、ジーゼンエンゲルの採用等となつて居る。而して今や、現在利用されつゝある新式設備は十年前の舊設備に比して、一割乃至五割の良能率を確保し得ると謂はれる。その新式設備が、或る程度迄各事業部門に普及せられれば、舊式

設備を有する事業會社は競争上、無理を行つても新式設備の採用を餘儀なくせられる。而も勞銀の騰貴、労働者團結力の強化等、最近の情勢は資本家をして益々能率機械に依存せしめんとしつゝある。

要するに、現在米國景氣の中核は、生産設備の代換と更新にあり、その發展はなほ期待されつゝある。嘗ては米國重工業最大の顧客であつた鐵道、公共産業等は依然たる業績の不振で、未だ極めて部分的に新式設備の取替等を行つたるに過ぎない。米國鐵道の氣罐車の大部分は十五年以上の年數を経てゐるものとせられ居る。だが最近鐵道荷動きの活潑、公共産業回復等、この方面の生産財需要もあり得るのだ。

だが、要するに現在の米國景氣は資本主義修正運動の繼續の一つに過ぎないのであつて、従つて一つには外國に資本を輸出する餘力もなければ、更に二には保守的資本家の反動政策が米國の社會的危機を招く危険は決して除去されて居らない。共產黨第七回コミンテルン大會に於いて、米國共產黨代表が米國を以て最も運動の好望の處なりとして居る所以は此處に存する。かるが故にこそ米國の外交政策は國際的に力を削ぐの餘裕なしと、ムツソリニーは見てゐるのである。此處にも解決し得たる問題は米國資本主義の矛盾である。

(一) 佛 蘭 西

佛蘭西が資本主義的國であることは餘りにも著明である。殊に佛蘭西の資本主義的傳統が金フランにあることは、佛蘭西をして資本主義の修正だになすことを困難ならしめて居る。佛蘭西には資本主義か、社會主義かの二つの撰擇が残されてゐるかの如き形勢になつて來てゐる。加ふるに其の地位は獨逸を恐れ、英國を恐れねばならない。そこで第一に目ざしたものは歐洲の金融霸權の確立であつた。之に對して英國がオースタリーのクレヂット・アンシュタルト銀行を財政的に援助し、英國も、獨逸の經濟復興に一發言權を持たんとして現はれた。佛國は其の報復手段として直ちに倫敦の金を引上げた。英國の金本位は停止された。之は四年前の事實である。その後一九三三年のヒットラー政権の樹立は、佛蘭西をして獨逸を包圍する所の、小協商國の連衡政策のみを以つてしては、安全なる保證とした。時に會々、英國は獨逸に對して軍縮問題に關連して媚笑的態度を示した。そこで佛國は最早英國を以て頼むべからずとなし、遂に無任所相、前總理エリオのモスクワ訪問となつた。此處に出現したるものが、一九三四年十月の露佛軍事救援同盟である。佛露の提携は此處に極めて重大なる國際時局の一投石たる意味を持つ。一つはソ聯の世界政策がその接境の不可侵條約政策から一轉して、國際聯盟との聯絡協調を通じての、民主主義諸國との合作工作と發展するに至つた事である。第二はソ聯列國の建前たる共產主義政權の歐羅巴浸透の可能性が確立せられたることである。露佛軍事救援同盟の結果は、遂に佛蘭西の

政界を縦断して二つとした。中間にあつた佛蘭西のブルジョア諸政府黨の勢力は吹飛ばされた。今や佛蘭西に存する所の政治勢力は一方は國家主義諸政黨、愛國主義諸政黨の同盟と之に對立する共產黨と、第二インター系の社會黨、更に急進社會黨及び社會急進黨の同盟とである。此二勢力の相克は内亂を齎らす。現状維持の使命を有するラヴァール内閣はこの二個の對立する政治勢力の上立つて居る。恰も兩頭の馬を連ねて、片足宛を馬背の鞍に置き、國際政局に處せんとしてゐるに似てゐる。英國に近寄れば、片足を踏みはずしく、伊太利に近寄れば、他の片足を踏みはずしく、國際聯盟外交はこれを捨て得ず、さりとて對伊制裁に對しては、その英國に對する關係から極めて熱心なること能はず、この政治上の矛盾は、佛國を弱めムツソリーニをして其の行動に自信を持たしめてゐるものである。

三) 獨 逸

ヒットラー政權の文化對策は世界轉換期に於ける一の指標として、極めて示峻に價ひするものがあるにも係らず、工業部面に於ては明かに資本主義的である。元來、其の政權奪取運動の資金は、テイツセン工業財閥その他より供給せられて居ることは、極めて明かなる事實である。従つてその工業政策は、勞働者の自主的意欲に對して極めて無自覺である。獨逸國民を、不必要に低く評價する必要もないと同時に、又不必要に高く評價することも避けなければならない。チュ

ビツクが著した所のルーデンドルフ傳は、この點を極めて明瞭にして居る。ヒンデンブルグ、ルーデンドルフの近代兵器に對する認識の不足から、最後の戦線敗れて、獨逸帝國が瓦解せんとする前夜、カイゼル、宰相ミハリス、ヒンデンブルグ、ルーデンドルフは秘かに相議し、民間の勢力と圖り「上」からの擬似革命を行ひ、其の擬似革命政府による國民的反抗によつて講和條件を緩和せんとして企圖したことがある。然しその企圖は失敗に歸した。ルーデンドルフは嘆息して云ふ。獨逸國民の反抗は起らなかつた。只茫然自失して居た。其の運命が決定されてから始めて反抗が起りました。唯命令に對して如何によく服従するかといふ事のみを教へられた獨逸民衆は自個の運命の見透しすらかなかつた。これは獨逸教育の一大失敗である。自主的に、獨創的に自ら運命を開拓すべき何等の反逆すら起り得なかつた。そして、漸くにして起つたる革命は學者的に構成された。世界に於ける獨逸民族の運命ですら考慮することを潔しとしない種類のものであつた。「上からの革命」すら獨逸國民には不可能なことであつたのだ」と。かくて彼自ら北歐に逃亡したのである。獨逸社會民主黨と、獨逸勞働總同盟が一夜にしてファッショの爲めに覆へされたる歴史を見よ。一國の工業は勞働階級の創意と勤勉と技能と自負とによること極めて多大だ。最近獨逸輸出工業の低落は將にヒットラー社會主義勞働政策の結果の反面を物語つて居る。選擇を誤れる公共事業と軍事費の膨脹は物資の輸入に依存するインフレーションの擴大を極めて重大

なる獨逸の財政の危機を包含して居る。獨逸は米國と逆を行つて居る。米國は資本主義の修正を大衆購買力の増大から持ち込んだ。それから前述の如く消費財生産業の好化を生みそれから生産財生産業の好化を生みつゝある。

獨逸の「勞働創設計畫」が三年前國權黨パーベン内閣によつて實施されんとするや其の目標は消費財産業の回復にあつた。だが其の重要な前提に就ては何も顧みられなかつた。大衆購買力の増大である。勞働者の平均収入は低下の一方である。そこで事業は生産財の生産業と公共事業による貸銀給付以外の方策を取り得ざるに至つた。本年の六月獨逸工業は大體一九二九—三〇年の水準に回復した。だが纖維製品類と履物類と家庭用品の如き消費財の生産高は低く鑛石類金屬製品類建築材料車輛機械建築建物自體の如き生産財即ち資本財の生産高は高く其の間の開きが著しい之は豫算が生産財生産業と同じ性質の失業救済公共事業にのみ使用された事に示して居る。

又獨逸と米國は其の經濟的條件を異にして居る。獨逸は工業國となつて以來其の必需食糧を自給自足し得ない實情にある。全消費食糧の二割五分乃至三割は輸入に俟たざるを得ないので。牛乳肉類等を國內に於て自給し得るとしても大麥、小麥、大豆は之を輸入に俟つの外はないのだ。然るにヒットラーの採用した「アウトタルキイ」(自給自足)政策はこの輸入を禁遏した。食糧暴動は常に發現の體勢をとつて居る。

農産物の自給の出来ない獨逸としては、米國の農村對策中農産物の價格維持の方策をとつたとしても自ら効果はなかる可き筈であつた。其處でアウトタルキイ政策をとつたのだ。だが食料不足の現實は輸入に俟つ以外に何の方策もあり得ない。

獨逸の農業政策はかゝる現實の肯定の上に別個に建てらる可きであつたのだ。だが其處には社會主義的創意を必要とする。それがなかつたのだ。ない筈である。生産財産業にの偏重も食料の不足をも共に克服し得可きものは政治革命を雄大なる經濟計畫とだ。そも／＼その大前提がなかつたからである。ヒットラーの革命とは「ロ」の革命であつたのだ。

そして再軍備は促進される。こゝに財政的危機が發展する。ヒットラーはメイメル問題に對して國民の視聽を集めしむるに止つて、エチオピア問題は發言權を放棄して居る。

(四) 英 吉 利

英國が太陽沒することなき汎世界的紐帶を以つて、その廣大なる植民地を市場とし、その植民地の勞働を搾取し、その上に英本國の繁榮を築き上げ、それを勞資協調の名の下に分配して、偷安の安きに耽つて居られたのは永く續かなかつた。英國産業の生産設備は老廢化した。安爲替の原因の外に新しき生産設備と新しき工業構成と新しき勞働力を持つたる日本商品が現れたのに對して、英國商品は防衛する力が少かつた。先づ日本商品は英國傳統の市場たる揚子江流域に入

り出した。英國は表面に立たず、老獪にも國民黨政權の一部を利用して、排日排貨、及び國貨提倡によつて日本商品を抵制せんとした。それは成功しただが、それが如何なる状態となつて現れたか。第一にはかうである。日貨排斥國貨提倡は結局支那各省にオートルキー（自給自足）政策の思想を普及し、例へば各省に於いて各種の公營産業を起さしめ、これに對して英國の生産財を供給し得た。廣東で砂糖、硫安、山西で紡績等がある。然るにこれ等の工場建設は非常識なる迄の資本の浪費となつた。砂糖工場は原料地に遠隔で採算合はず、結果、工場を造つたゞけで砂糖は造らず、爪哇糖を買つてそのまゝ工場の門を通すだけである。かくて高價なる砂糖を省民に供給して居る。硫安も亦然り。電氣の動力もなければ石炭も四百哩の遠きにある。斯くの如き資本の浪費が支那全體の經濟社會を無政府的にした。鐵道の如きも外貨償還を終つたものは中央鐵道部の管理下にある。だがその運賃率等は一に政治的考慮のみによつて決定せられて居る。同一鐵道であつて、同一品目に就いて、省の區域により四倍乃至五倍の差違を示して居る。斯くしてそれ自體又經濟社會の分裂に貢獻して居る。

第二はかうである。かくして紡績は一應日本品を阻止し得たであらう。だがその間に日本商品は英本國の影響下にある所のスグン、エチプト、ケーブターワン、アフガニスタン、印度、海峽植民地、英領ボルネオ、ニューギニヤ、オーストリー、加奈陀等に氾濫して行つた。更にその影

響下に於ける植民地自體の工業が英本國の工業と衝突し始めた。最早や舊來の立前に於いては、帝國主義的保護政策を以つては英國自體の經濟的落潮を救ふことは出來ないので。

(五) 伊 太 利

ムツソリーニのファツショ政權が資本主義であることは云ふ迄もない。その金融財政々策に於ける特長は、「人の働きの値」を下げ、「金の値」を引上げる所の金融資本的銀行的デフレーションに存した。立小便をする人は減つても、泥棒をする人は減つても乞食が街頭から減つても（これのみがムツソリーニ政權の贖面の効果ではなかつたが）伊太利經濟全體の金融資本主義より發生する所の不景氣を如何んともし能はざる状態に當面した。一方人口増加結婚の奨励は伊太利として佛國よりも人口回復率を速ならしめて居る。此處に於いて何人がムツソリーニの地位に有らうとも、氣の付き得ることは、一石兩鳥である。即ち三十萬の大軍をエチオピヤに動かし、亞弗利加なる伊太利領エリトリア、伊太利領ソマリランドに隣接する新植民地を建設し、人口の捌け口を其處に求めると共に戦争の名に於いて軍需工業を總動員し、デフレーション政策をインフレーションに轉換し、合せて國民經濟の戰時國家管理を斷行し、崩れ行く伊太利資本主義を一時なりとも彌縫してムツソリーニの政權を維持するの他はないのである。

(六) 英 伊 對 立

ツアナ湖水の水利權が伊太利に押へられることは、その水を青ナイルから引いて以て作つて居るエチプトスダンの棉花を抑へられることである。同時に伊太利が亞弗利加海岸の紅海海岸のエリトリア、ソマリランドを強化し地中海の制空制海權を脅威すればジブラルタル、マダカスカル紅海、印度、シンガポール、香港を連ねる英國帝國主義の東西兩洋の連鎖を脅威せられる。斯くして英國は軍事的乃至經濟的に伊太利を牽制せねばならない。英國はその聯盟外交を通じて之を行ふのだ。此處に英國と佛蘭西と蘇聯が聯盟に通じて結ばれる。英米の文化的紐帶によつて亞米利加を招く。かくしてその東洋に於ける地位を維持せんともする。その對支經濟工作乃至對日諒解の任務を帯びて選ばれたるものがリースロスであるといふことになる。

(七) 蘇 聯 邦

斯くの如くして世界は極めて混亂して居る。この各國家と世界政局の動搖に當つて我々は最も重大なる關心を以つてソ聯邦及びその國策遂行機關としてのコミンテルンを顧みねばならない。前述の如き各國家内の狀況と國際狀態の窮迫とを意氣昂然として、新らしい出發點に立つて、自信に満ちて白眼しつゝ其の世界政策を轉回してゐるものは何といつてもソ聯邦である。我が國のソ聯外交の經緯はソ聯をして完全に聯盟本位と、國民黨政權支持の側に押しやつた。我々はソ聯政府自體の方針とコミンテルンの決定を中心として見よう。コミンテルンがソ聯の國策機關化

したる事實と合せてソ聯の世界政策を瞥見することとする。

斯かる國際情勢の眞只中にあつてコミンテルン第七回世界大會は本年七月二十五日、モスクワに開催せられ、世界六十五支部、五百十名が參會し、八月二十日に閉會した。本年度の第七回大會は第六回大會から相去ること七年、七年の休止の後、伊エ戰爭に集結表現せられた。世界政局の動搖の最中に於て、改めて大會が持たれたことに重大な意味がある。第六回大會から今次大會迄の七年間は、ソ聯國內に於けるスターリンの一國社會主義の全的確立であり、國際的には國際共產黨のトロキーズム排撃とファシズム防衛のために全力を挙げしめた時代である。一國社會主義のスターリンズムは國內に於いて全的勝利を完成し、總て民主的政治方法への轉化を暗示して居る程餘裕を生じたのであり、従つてこれに關聯してトロキーズムの全的敗北も實證せられたのである。だが、國際共產黨は從來清算し切れなかつた所の公式主義の爲めに對ファシズム戰に於いて、ヒットラーに對する獨逸共產黨の徹底的敗北を初め、世界各國に於いて一步の前進をもなし得なかつたのである。この經驗が國際共產黨をして百八十度の戰術的轉換をなさしめた。それを今次大會に於いて力強く表現したのである。その故に今次大會の戰略目標は極めて現實化されて居る。その項目は平和擁護のための闘争、即ち反帝國主義のための闘争、及び反ファシズム闘争の二點に集中した。即ち公式的理論から政治的戰略に發展しつゝあることが明かにされて居る。

るこの二點が畢竟ソ聯防衛のための國策的要求に出ずるものなることが極端に表現されて居るのである。即ちこのことはコミンテルンが第一期に於いて急進的トロキーズムと抗爭して迄も國際聯盟との協力を支持するに至つたる現實的政策から第二期のソ聯の國策機關化への發展であるのだ。即ち反帝國主義及び反ファツシヨの二大基本の政策の重點は明かに日本及び獨逸を目標として居る。支那國民政府と支那共產軍を通じて日本と對立し、ポーランドを通じて獨逸に對立し、戰術として反ファツシヨのために佛蘭西及び米國のデモクラシーに接近的態度を示して居ることはとりも直さずコミンテルンがソ聯の機關化の進行として注目し價する點である。殊にその東洋に於ける關心は大會の終始を通じて極めて強く表現せられ、滿、支、コミンテルンルート及び中國共產黨支那赤軍に對しての對策は最早や抽象的にあらずして具體的である。

七、支那に於ける諸傾向と其の綜合的動向

蔣介石政權は昨年六月より九月に亘つて動搖した。しかしそれは武力の弱化ではない。資本主義浙江財閥に依存する限りに於て農民大衆を失はんとしたからである。浙江財閥の資本主義は銀問題に蹉跌した。銀の流失を防がんとして防ぐことを得ず、銀價の暴騰を防ぐを得ず、終にデフレーションとなり、支那の農村恐慌となり、世界的原因に基く農業恐慌が之に拍車を加へて支那

を今日の經濟的無政府状態に陥し入れた。この意味に於いて、資本主義に依存する限りの蔣介石政權は大衆を失つて動搖して居る。一般に支那經濟恐慌の原因を苛税天災匪害と謂ふ。之は謬りではない。乍然其の根本は資本主義的混亂である。其の混亂は又一つの拍車を加へたのは封建主義との分離がなされない處から發生した。前述せる所の、支那民族運動の前哨戦としての國貨提唱運動が、地方政權との抱合によつて各省のオータルキー運動に展開せられた事である。此處に大なる資本の浪費が生れたことを見ねばならない。これが支那全體の經濟社會を無政府的にし分裂せしめて居るのだ。かゝる支那の現状に於て農村サヴエート地區の擴大は現在の支那に四つの政治的傾向を生むに至つた。第一は支那資本主義諸勢力、即ち今一應資本主義的に、支那經濟を再建せんとする運動の中で依然として歐米資本に依存せんとするものである。かかる運動は結局英米本位の對支借款、孔財政部長とリースロスの案に具體化せんと努力して居る。第二は日本の對支商品輸出といふ、幼稚にして素朴な日本資本主義に對し經濟提携工作を求め、日支の資本主義的の提携によつて、支那經濟の再建をせんとする所の動きである。これは支那實業團の九月に於ける日本訪問となり、又日本からの訪支産業使節となつて居る。然乍ら我が國には、その獨力を以て、支那經濟を再建するだけの資本の蓄積もない。又英國倫敦が世界市場に對して有するが如き、コンサイメント及びヘツチングの傳統的市場に比す可き所の、コンサイメント（委託販

賣)、ヘッジング(信用取引)の市場権は東洋の範圍に於てすらも大阪にも横濱にも九州にも未だ確立せられて居らないのである。

第三は農民が軍閥と省政府と地主の搾取から離脱し中國共產黨の土地革命に合流する傾向に添ひつゝ、國家社會主義的に、土地を國有乃至村有にし農民を共產黨から喰止め農村恐慌から立ち上らしめんとする所の政策提唱の傾向である。閩錫山をこゝに見る。

第四は少くとも支那沿岸を除く限り農村ソヴェート地區の擴大の傾向である。

この四つが現下の國際情勢に關聯する支那社會情勢より發展する所の矛盾的なる四つの政治的傾向である。其の中に於て最後のものが最も強ひものである。乍然、それがソ聯の世界政策英、米の世界政策に關聯してくる場合に於いては更に複雑なる各種の政治的動向を發見し、分析し得るものであつて而して蔣介石乃至國民黨は其の交錯の上に巧に安定しつゝあるのだ。

國民黨一部と浙江財閥とが、米の外交と英米資本主義へ提携する事は是れ自體、直ちに重大な政治性を持ち來たるのである。更に國民政府が蘇聯の世界的政策と結ぶ時には經濟理論を超へた重大な政治性を持ち來るのである。この二元政策は蘇聯の聯盟外交によつて矛盾しないのである。元より原則的に言つて國民黨蔣政権が上海に於て浙江財閥を基礎にしつゝある限りに於いて本質的には、支那社會に對する權力基礎の脆弱性を包蔵してゐることは理解し得る。假に蔣政権

に集中的に表現せられたる國民黨政権が、蔣介石生存の間は、現在の勢力を維持することが可能なりとしても、最早や蔣介石死後に於いては、何等の波瀾なくして、第二の蔣介石出現の可能性を包蔵して居らないといふことも理解し得る。だが眼前の事實は國民黨政権は各國世界政策の交錯の上に立つて安定して居るのだ。蔣政権が、ソ聯の世界政策と提携することは一方が資本主義一方が共產主義である限りに於いて、甚だ理解に困難であることであらう。又蔣政権の英米佛依存外交即ち資本主義的協力が蘇聯の共產主義外交と併び行はれ得る事は觀念的には理解に困難であらう。だが之はコンミンテルンの本年度大會の決議を見る場合に於いて極めて諒解し得ることである。世界共產黨は最早や一つの理論的、公式的理論の立場を捨て、戰術的立場をとつて居るソ聯を擁護するために、日本を假想敵として、支那國民政府を支持せんとしてゐるのである。然して聯盟を通じて民主主義的政權の名の下に英米佛資本主義と當面妥協して居るのである。かるが故に國民政府が一方聯盟を通じて英米佛の資本主義と結び、他方蘇聯と結ぶ事は何の矛盾もないのだ。残る處は當面支那に於て中國共產黨指導下にある農村サヴェート地區と蔣介石資本主義政權地區との地域的協定があればよいのだ。これは支那の廣さに於て地形に於て協調し得る事柄である。

蔣介石が浙江財閥から資金を得て本年の春より積極的に展開して居る。剿共匪工作、赤軍討伐

を、中國赤軍との決定的戦闘と見得るものであらうか。是れは蒋介石討伐軍の行動を見れば、直ちに明かとなる。四川、貴州、雲南の剿匪戦を見ても、蔣はその地に入るや土着軍閥を剿匪の最前線に出し、中央軍を後援部隊とし、土着軍閥を共産軍と中央軍の間に狭撃の形をとつて居る。かくて土着軍閥の破損化と潰滅を圖つて居る。省の主席には蔣直系の要人を据へた。更に四川の如きに於いては、四川銀行の銀行券を回収し、中央銀行の紙幣に統一してゐる。即ち剿匪工作なる名の下に蒋介石は自ら國民的英雄の地位に上り、國民の信望をつなが、何者も反對し得ない所の軍事工作によつて、剿共地區を、漸次南京政權の軍事的、政治的、經濟的強化支配の下に置きつゝある。かくて中央政權の強化を圖りつつあるのだ。共産黨匪の徹底的討伐は固より蔣が一生かゝつてもなし得ぬ事業である。蒋介石が其處まで決心して、この事業に當つてゐるのではない。自己が支配を欲する地域の中央化運動としての政治性を以て、これに當つて居る。従つて赤軍並に共匪が中央と隔絶される北支背面の地域に移動するならば蔣に於いては、寧ろこれを討伐するの必要はないのであつて、日本勢力の牽制策として、そのまゝにこれを放任し得るのである。中國共産黨及び支那共産軍の敵は、コミンテルン大會の後の今日、蔣政權でなくして、日本である。デイミトロフの演説中に見るが如く、日本に對する支那の挑戦は、これを民族開放運動と見做し、例へブルジョア政權であらうと、これを援助することを斷言してゐるのである。

數年、杜絶してゐた所の露支國交が、滿洲事變を機會として、日本を牽制するために回復せられたる事實、駐支大使フオゴモロフが南京政府に對し、北支事件に關して深甚なる同情の意を表すると共に、日本が積極的に支那に進出する場合に於いては、ソ聯は支那を援助することを辭せざるべき旨、確言したりとの報道を併せ考へてゐる場合に於いて、此處にソ聯の世界政策と國民政府。上海、南京を中心とする英國の世界政策と支那國民黨政權。而してソ聯及び英米佛を歐羅巴に於いて繋ぐ所の國際聯盟。かく觀し來らばその合成する所の支那政局全般は浮彫にされる。

共産軍は江西省を放棄して以來、漸次湖南、貴州、四川、甘肅、陝西の順序で、北方に退却しつゝある。更に最近では蒋介石の側に於いて山西、陝西の共産化を宣傳し、自ら陝西南部に入り、中央軍の精銳を此處に駐屯せしめ、軍隊を以て北支を牽制し、一方舊東北軍の張學良を剿匪副司令とし、他方共産黨討伐の共同戦線を以て、山西の閻錫山を擁立しつゝある。閻錫山は國民の公敵共産軍討伐といふ大義名分によりて牽制せられ、北面よりは共産軍の直接の脅威を受け、遂ひに南京政府の招轉に應じて中央に出てしまつた。

蒋介石は剿共匪工作といふ、大義名分によつて、中央軍を北支、山西に入れて、北支に對する壓力を加へると共に、陝西、甘肅の山間地帯に共産軍を放置し、一方内蒙の察哈爾、綏遠、寧夏から外蒙に通ずる路線に共産軍を配置せしめ、北面から滿洲と北支の背面に、その進路を向けし

めんとしてゐる。結論的に言へば、北支は北、共産軍と、南、中央軍とに圍繞された結果となつた。

ソ聯とコミンテルンの對日方針は、支那政權と妥協し、日本へ集注的攻勢をとるにある。國民黨中には容共聯露の政策を稱へる實力者もある。國民黨中の聯盟派は、聯盟を通じて又の露西亞の世界政策に一面の脈絡を持つ。かく考へ來たれば、中央軍の進出、共産軍の移動は計畫的であつたと見られないことはない。殊に陝西、甘肅、山西、内蒙古に入りたる共産軍に對し、中央軍は舊東北軍及び、中央軍一部を以て討伐軍を編成してゐるだけであつて、積極的に討伐しようとしては居ない。即ち共産軍の北上移駐を承認してゐるかの如くである。

かゝる情勢から、ソ聯と國民政府との間に西北地區協定が成立してゐると傳へられてゐる。傳へられる所によれば、去る七月一日、モスクワに於いて、リトビーノフ、顏惠慶の間に協定の成立せる所のは、左の如くであると云ふ。

中ソ國交鞏固と通商發達、及び極東平和維持のために、中ソ兩國は西北地區協定を締結す。

- (一) 兩國は第三國が中國邊疆を侵犯せる時はこれを共同防衛すること。
- (二) ソ聯は中國内に於いて赤化宣傳を行はざること。
- (三) ソ聯は新疆省が中國行政省の一つたることを承認すること。

(四) ソ聯は中國共產黨をして華南、華中を撤退せしむること。又中國政府は支那赤軍が、陝西、甘肅、山西、内蒙古へ移動し、駐屯することを承認すること。又その東方進出を妨害せざること。

(五) 支那赤軍の移動に對して中國政府は妨害なきをこと。これ等は締結の日より効を發するとせられてゐる。

固より、この事實如何に關して、確證を得ない。然乍ら確認せられたる世界諸情勢から發展して、此處に至りて得るものである事は事實。又これを有るかの如くにして、蔣介石政權はこれを利用して得る所のものである。

蔣介石は四川の成都を新たな起點としてソ聯と北に合作し、その力を滿洲、北支背面に延ばしめ、一方新疆、西藏のコミンテルルート（赤色路線）より、赤軍の主力を撤退せしめ、英國の印度接壤地方の赤化脅威をなくし、英國より金融資本の援助を仰ぎ、聯盟を通じて相聯するソ聯と英國の世界政策を左右に操つて日本に對峙せんとする情勢を示してゐる。

即ち今や我が國の對支問題は直ちにソ聯政策の問題であり、直ちに共產黨の問題である。かく考へ來たれば、内蒙獨立運動、北支自治運動の看透しは自ら明かとなる。畢竟滿支民衆の政治的經濟的再組織の建前、イデオロギイの確立が我が世界政策の再出發の根幹となるのだ。又英國の浙江財閥援助による資本主義的進出、即ち英國帝國主義の分析と批判とイデオロギイ的對策の確

立が重點となる。この二面の問題をとり上げ、これを鮮明して、我が國は革新國民外交への再出發、世界政策の再建に。大乗的立場を決めなければならぬのだ。北支政策も出直しである。しかし其出直しは國內問題である。かくて外交問題は悉く一應日本内地に還元される。内地に於いて揚棄せられる。そして更にその力を増して大陸に迫まるものである。現代の世界情勢をベルリ浦賀一發の號砲したる所以は此處にある。

九、我が現對支政策の再檢討

(一) 二 様 性

我が國の現在の對支政策の基調は明かに二個の體系に分ち得る。一つは上海、青島を中心とするシー・パワー(海上極力國家)としての日本の勢力である。一つは滿洲を生誕せしめたる民間に日本の有するランド・パワー(大陸權力國家)として、支那社會に迫まる所の迫力である。海上國家としての日本の勢力は本來資本主義的なるものであつた。従つて支那社會に對する適應性の點から見るならば、本質的には他の諸國、乃至支那自體の資本主義勢力とも何等異質のものでない英國の香港、上海より迫まる所の資本主義的勢力も、支那浙江財閥の資本主義的の勢力も、我が海上國家としての資本主義的勢力にも、本質的には資本主義たるの一點に於いては同質のもので

あるのだ。唯各國資本主義の民族性により、資本主義の「型」の相違が存するのみである。その形の如何が支那農村社會に對する適應性の如何といふ問題に還元されるに止まつてゐる。支那に於いて營まれる支那の紡績業、英國の紡績業、日本の紡績業は、その紡績業として資本主義産業的な一點に於いては本來共通の性質を持つ。唯各國民族の民族性が、その「型」の差違を示してゐるに止まる。この意味より考へるならば、資本主義自體が支那社會に對する脆弱性のその故に本質的及び將來的には脆弱性を包藏するものである。だが一國社會は化學實驗室のフラスコではない。支那奥地農村の社會と、支那沿岸社會の構成の相違は、暫くの間、かゝる各國民資本主義の競争を益々發展せしむるであらう。海上國家としての日本の對支國策は従つて當分の間は自由主義的の立場に立つて、個々の摩擦、個々のトラブルを、當面的、彌縫的、支那的に解決して行くの方式を執り來りに執るでもあらう。而してその窮極する所、支那に於ける日本資本主義の力が弱はめられれば、これが國內に持ち迫へられ、國內の矛盾から更に大なる力を以て支那に迫まるであらう。かるが故に、あるがままの海上國家としての我が國對支政策は動もすれば資本主義の國策遂行の色彩を持つのである。

然乍ら一方に於て、滿洲國を生みたる瞬間に我が國が持ち得た所の大陸國家として支那社會に對する迫力は、海上國家として、支那社會に對する迫力とは自ら異質のものたらざるを得ないも

のだ。異質のものたることを必然たらしめられる。其處には共産黨が存するのだ。どうしても支那民衆の生活を狙ひ、支那民衆の心を把握するにあらざれば、その力は成長されない運命を持つてゐる。此處に北支の根本問題が横はるのだ。

大陸國家としての我國現在世界政策の起點である滿洲國の發達が、それ自體、支那問題の解決たるべき運命を有してゐる。こゝに少しく滿洲工作を顧みよう。

(二) 間島共産地帯

滿洲に於ける匪賊の數は本年八月關東軍の公表によれば二萬八千人とせられる。うち共産匪七千である。最近滿洲國の農村疲弊が、その極に達し、共産匪は共農と結びついたが故に、その家族をも加へて、實際の數はその數倍に當るが如くである。共産匪は現在の所、寧ろソヴェートよりは中國共産黨に結び付いて居る。十二ヶ軍團までのうち六ヶ軍團は北滿にあり、他の五ヶ軍團は吉林省と奉天省東南部にあり、一ヶ軍團は全滿に散在せられるが如くである。多くは密林の中に兵舎を築き、山間の土地を開墾して農業を営みバルチザン戦法を執る。

共産匪の組織は軍の下に師あり、師の下に旅あり、その下に聯隊に相當するタシ、その下に大隊に相當する營、その下に中隊に相當する連、その下に小隊に相當する桃がある。戰術單位は大體連である。連は百名内外の兵員を有する。

共産匪と共農は占據地帯に於いて學校を建てて青少年成人を教育し、支那農村的、共産主義的教育を徹底せしめて居る。又病院を持つ。文化施設を行ふ。各々共産匪の間の聯絡網も情報網も科學的に意外に完備して居る。この共産匪を討伐して守備隊が入替る。守備隊の任務は軍事行動以外に、従つて更に文化的な任務がある。所謂共産匪も農民に對しては或る意味に於いては舊軍閥よりも善政を敷いて居るのだ。武力を以つて共産匪を追放すると共に、それ以上の善政を敷くことによつてのみ、滿洲農民は初めて王道樂土に歸屬するものであるといふことは、前線守備隊長の理屈を離れた信念である。最早や單なる抽象的の空言は許されない。農民に對する文化的政治機能の遂行、而して安定生活を保證する政治的任務の遂行、それを何等かの方式に於いて現實に具現することは最早や滿洲農村の問題であるのだ。素朴なる大陸政策が科學性を持たねばならなくなつたのである。同様の問題が北支に存在するのである。

(三) 支那農村問題

比較的正確だと思はれる處の武漢政府土地問題委員會の統計に掛つても支那農村人口中の五割五分は土地を有して居らないもので小作農、農業労働者、小商人、無職農民、兵士、遊民、土匪たるものである。土地を有する處の四割五分に就ても貧農と中農が大部分を占める。全農村人口の一割三分に當るに過ぎないものが全耕地の八割七分を占めて居るのだ。中農と貧農と小作農と

農業労働者が土地の飢饉に苦しんで地主と商農の搾取の下にあるのである。

元より支那に於て土地は自由に賣買する事が出来るのであつて従つて商品化して居る。

封建的身分制の土地は廢止せられブルジョアの土地所有が支配的であつて、個人は土地を自由に所有する事が出来る様になつて居るが、土地賣買には家族的制限がある。地代は高率現物時代が支配的であつて、必要労働部分に迄喰込んで居る實情であり、地主は利潤を目標としないで地代で喰つて居る寄生的地主であり、農民の搾取には經濟的強制が加へられ、地主の極力は壓倒的地位を有して居る。かくして其の土地所有關係は依然として半封建的形態である。かゝる状態は一方に於て農民と土地に緊縮し、其の農耕形態を零細化せしめつゝある。之に従つて農民は漸次窮乏化して土地を喪失し、自作農から小作農農業労働者遊民と化して其の地位を低下しつゝある。其の原因は半封建生産關係による農産物と工業品の缺狀價格差と、それが更に世界農業恐慌によつて擴大せられたると土地價格が上昇し、之に伴つて地代が増大し、従つて農耕資本が缺乏した事と商業的高利貸資本が法外な搾取を行つて居る事と軍閥の嗜意的な苛斂誅求と自然的災害を防止するに無力な事から被害が増大した事等とである。支那農民の窮乏化、債務奴隸化、農業生産力の衰退等はこゝに支那の民衆の經濟的、政治的、再組織の問題として土地革命を取り上げざるを得ざるに至つて居るのである。

そして此土地革命の問題こそ中國共產黨が取上げ、且つ強力に遂行して居る處のものなのである。それ故にこそ支那のソヴェート政權は反動勢力の不斷の攻撃に耐へつゝ農民大衆から支持されて其の勢力を擴大し得たのである。支那ソヴェート政權は新土地法第一條に明な様に「従つて封建地主、富農、軍閥、官僚及其他の大私有主の土地は自個の經營たると賃貸たるとを問はず一様に何等の代償を給付することなく之を沒收する」にある。沒收した土地は之を國有にするのではなくして「ソヴェートを通じ貧農及中農の間に分配を實行する」のである。かゝる土地革命が農業人口の八割七分を占むる處の中農貧農乃至救貧農に支持せられて、その革命勢力を増大せしむる事は火を踏るよりも明である。

かゝる土地革命の大旗をかざして農民大衆の支持を得つゝある支那の革命勢力が、四川、陝西より漸次山西、綏遠の方向に移動し來りつゝある。之が前述せる處のリトヴィノフ、顏惠卿の地區協定を惹起せしむる處のものである。この力が今や北支に及びつゝあるのである。

黄河は遠く西藏に源を發し、北に上り東に折れ、少しく南に下つて更に東流して渤海に瀝ぐ。悠々二千哩西藏の雪解の水が支那大陸の西北部を廻つて河口に達するには實に四ヶ月を要する。水害は殆んど何等の水利事業のない支那に於ては例年の事であるけれども、本年の水害の如きは六十年來と云はれる。

黄河は其の名の如く多量の黄土を含み、下流に至るに従ひ其の黄土を河底に沈澱せしめ、水流を緩にし河口附近に於ては時速三哩の緩速たらしめる。其の黄土の沈澱は河床を年々隆起せしめる。沿岸の住民は水害を防ぐ爲めに堤防を更に高める。堤防を高める爲めに河流の西側の地を掘つて築堤に利用するのであるから兩岸の土地は河床に反比例して低くなる。黄河は今や高い堤防の上を汽車の如く流れて居る。されば萬一其の堤防が決潰すれば水は兩側の耕地に流れ出で、止る可くもないのだ。本年の水害は山東省の半分を江蘇省の北部を水びたしとした。山東省の罹災民五百萬損害二億圓と推算される。

夫れに對する救援事業は山東主席韓復榘の下で行はれて居るけれども官吏の俸給からの二割天引と、地租一兩に對しての救援附加税三十仙を以てして七十萬兩、國民政府からの交付金三十萬兩合計百萬兩を集め得たに過ぎない。一方罹災民中餓死に溺するもの五百萬中二百萬であり、之に對して一ヶ月衣服一圓、食費一圓八十錢と見ても一ヶ月に約三圓を要すると見て、六百萬圓を復舊に要する費用は當面を糊塗して水過を彌縫する文だけで二千萬圓を最低とする實情にある。かかる自然の打撃を最大ならざるも最低の原因として、今や我々の眼前に迫る處のものは支那式資本主義經濟の崩壊の姿である。

それは現代資本主義的な機構に迄發達した資本主義であるならば恐らくは銀行の預金引出し等

の銀行恐慌となつて表はれるであらう。だが支那は未だ現代資本主義の機構に迄も發達して居らない。財閥の銀行の信用は或る場合、政府の武力、或る場合民間の暴力によつて防衛せられて居る。従つてそれは公債不安の形式をとつて發展するのだ。支那に於ける銀硬貨經濟は今日迄支那の經濟社會をして政治社會と隔絶して生存する事を得せしめて來た。だが銀不安は支那を襲つた其の上米國の銀政策が來たのである。元來米國の銀政策は銀通貨國をして銀の使用を再び可能ならしめ、銀通貨國の經濟を復活する目的を以て其の買入政策銀高政策がとられた事は極めて明瞭であるのだが、不幸にして、銀通貨國の不況はいはゆる世界資本主義の矛盾から發展したのである。銀硬貨そのものから發展したのではなかつた。かるが故に米國の銀政策は逆に銀通貨國の銀を米國に集中せしめ、銀通貨國をして逆にデフレ的效果を受けしむるに至つたのである。

支那に於ける銀の苦悶は此處に拍車をかけらるゝに至つたのだ。かかる煩悶から最後の冒險として試みられたものが國民政府とリース・ロスとの間に企圖せられ、英國政府の暗黙の了解の下に但し實質的に何等の準備なくして行はれたものは銀國有令であり、又一・二・五のスターリングに元を釘付けした事である。換言すれば國民政府は一夜にして銀硬貨本位制から脱出して金本位制の建前に於けるスターリングに元を連關せしめつゝ國內的に管理通貨制に飛び込んだ事である。かつて支那幣制は即ち資本主義經濟は崩壊の前夜に立つた。何故に之を崩壊と云ふか？ 技術的

なる批判は今日之を論外に置くが、支那の治外法権による貿易爲替統制の不可能と硬貨即ち銀銅貨の死蔵の傾向とを指摘しなければならぬ。

かゝる状態の間から北支自治運動は進展した。蒋介石の北伐は固はらずして北支に國民黨治を及ぼした。その然りし所以のものは實に蒋介石軍隊の「秋毫不侵」の規律に存し、舊式軍閥軍隊の嗜意に苦しんだ民衆は風を望んで之に呼應したのである。國民黨治は正に一段と進歩した處の政治ではあつたが、地方軍閥の嗜意に代つて國政黨治に於て來た處のものは「法律的擄取」であつた。北支民衆は未來數年の税を納入せざるを得なくなつた。しかも國民黨の下に於て任命せられた地方権力者は昔時と何等異なる處無き宋韓等の舊式人物であつた。其處に銀國有令が來た。之は北支の有産階級を打つた。高民自治を要求するに至つた。

(四) 最近の我が對支外交

我國の對支政策は本年九月末の四省會議に於てその新原則が決定せられ、次いで大連會議となり、守島外務省東亞局第一課長の渡支により、現地總領事會議によつて決定的に原則が打ち建てられたかの如くであつた。然し乍ら打ち建てられた如く見えたる原則は實は極めて抽象的なるものであつた。即ち支那に對する場合、支那の金融資本、即ち浙江財閥、即ちこれを基礎とする蒋介石中央政權との提携が第一の方式である。或は又各地方の政治社會の現主權者を目標として提

携するの第二の方式である。又或は支那全體乃至は地方の支那民衆をその外交の客體とするかこれが第三の方式であり得る。

支那側より要求せられたる日支經濟提携は中央支那の金融恐慌を切り抜けたための支那金融資本援助の意味を含みたる提携であり、その意味に於いての中央政權との提携であつて、我が外務省主腦部はこの支那の動きに乗じて中央の蒋介石政權と手を握らんとした。而して四省會議の對支根本原則をその意味に於いて諒承した。

北支に起る所の自治運動に好意を有することそれ自體は、一方支那民衆とその構成する地方政治社會の實力者とを相手にするといふ意味であつた。軍部は共產黨討伐の共同防衛問題を中心とする地方政權を助長する方式に向つた。然し乍ら當時共產黨に對する態度が判明して居らなかつたの故に苟しくも共產黨討伐の共同防衛の問題によつて提携し得る限りに於いて、地方政權たると中央政權たるを問はず個々に協力せんとする方式に落着いたのである。かくして九月二十七日の閣議散會後、陸海軍等四相會議を開催し、昭和八年八月の五相會議の根本原則の、更に發展せるものとして對支新原則の申し合せを行つた。

五省會議の對支外交方式は

(一) 東亞安定のために我が國は日滿支三國間協調を圖り

- (2) その目的の下に反滿抗日の運動に對しては徹底的處置をとり
 (3) 支那に於ける親日政權に對しては援助を圖ること

と決定したのである。その原則は北支事件停戰協定の新事態を生んだ。然るに支那赤軍の東進はかゝる抽象的の策のみを以つては不十分となり來たつたので、更に對支新原則の申し合はせを行つたのである。その内容は極秘に付されて居るけれども、前提的條件として

- (1) 支那に於ける反滿抗日の勢力の處置
 (2) 支那政權の以制夷政策を解消し、國民政府の誠意を認め得たならば
 (イ) 中央並びに地方政權との經濟提携の具體化
 (ロ) 支那中央及び地方政權と支那に於ける共產軍討伐のために共同防衛策の提携
 (ハ) 中央並びに地方政權の滿洲國承認の場合の處置を決定した
 と傳へられる。

然るにかゝる決定を持つて現地に携行せる岡村少將、守島課長が未だ歸京せざるうちに支那自體の進行は極めて急激なるものがあつた。汪兆銘の狙撃事件、南京政府の銀國有令の發布、英國リースロス使節との對英借款の具體化、北支及び廣東の銀國有令の反對、滿洲、北支背面に向つての支那共產軍の進出等、日本を目標としての攻勢、蔣介石政權乃至張學良下の東北軍閥の共產

軍との協調等一連の進行がこれである。更に又北支、内蒙に關する限りの地方政權の英國に對し我が國の出先現地官憲の各種の對策は未だに一元化されてゐない。一つは察哈爾、綏遠、内蒙の獨立に重點を置かんとするものであり、一つは河北停戰協定地區を中心とする自治運動に力點を置かんとするものであり、一つは廣東の陳濟棠、廣西の白崇禧、李宋仁等の西南政權を中心とするものである。最後のは英米の政治的、經濟的背景に立つ蔣政權を打倒せんがために、廣東政府が我が國との提携を切望してゐる實事に立脚し、これを助長し、北支情勢と相並んで、親滿、親日政權の成立を待望するが如きである。かくして對支政策全面に亘り、根本原則と稱するものも眞の根本原則にあらざるが故に、常に新しき事態によつて動搖させられて居るのである。外交の客體を中央、地方いづれにせよの政權自體に置く事、その政治的行動の經濟的分析が不足なること、世界政治情勢の基礎付は不足なる事及夫等が世界經濟情勢の影響によつてより根本的な再認識の必要にせまられて居ること等から遺憾ながら從來の對支政策は外務も軍部も、今日の所までを以てしては根本的に再出發を餘儀なくせられてゐる。再出發は、目前一時の事態の、當面的處置からは生れない。再出發は支那民衆の政治的、經濟的組織の科學的分析による方針の確立、イデオロギーの確立からなされねばならない。而してこれ等は若し確立せられ得ると豫想せられるものである限り國內問題の解決を前提とする。是れは直に又國際問題に新らしき力を以て出て行

くのだ。即ち知る、外交問題は國內改造の問題であり、國內改造の問題は、即ち外交再出發の起點である。

(當面の政策)

動搖きはまりなき國際情勢は、これをその表面に把握すれば、悉く動いて止まらないものだ。然し、その根底に於いて、これを把握すれば極めて單純たり得るものであるのだ。現下の國際情勢から眞に國際平和を生む所の眞の平和機構の確立と、これを通じての人類高遠の理想へ向つての倫理性を有する國際的正義の再確認が要求されて居る。それは國內から出發しなければならぬ。だが國內から出發す可きものである事を明瞭に認識し得たならば、國內則國際の問題の解決の明日迄、今日に於ても、明日の爲に爲さねばならない。又爲せば爲し得る諸問題を提起して置かう。

- 一、自由通商と金の移動自由による國際經濟は死滅した。しかしながら自見孤立的ブロック經濟も過去二年の經驗に於て明に我等の指摘したが如く破綻を示した。我等はこゝに新なる原理に基く國際經濟の再建を目標とする一連の通商協定と關稅政策に出發しなければならぬ。
- 二、その爲めには政治性と經濟性を峻別し戰爭の危機を防止して、黨の建設大綱にある處の移民通商の自由と資源の開放を經濟的に實現を期す可きである。

- 三、今や新らしき世界の均衡が生れんとして居る。我國は政治性と文化性とを峻別し、極力的指導の概念を排撃しつゝ東洋弱少民族に對する文化的政策による提携を促進しなければならぬ。
- 四、蘇聯、英米支と對立して、獨伊提携し求めて新らしくして舊型式の勢力均衡の一例に伍することは努めて避く可きである。昨年十一月獨佛の協調の空氣を促進し、之を伊獨提携、日伊提携によつて警發せざることを要する。
- 五、日蘇不可侵條約を即時締結して極東平和工作に一步を進め、以て滿洲國の經濟建設のテンポを促進せねばならない。
- 六、滿鐵の特許會社精神を解消し、一鐵道會社とし一般的に資本主義政策への逆轉を警發す可きである。
- 七、米國との間に太平洋安全保障條約を締結し、太平洋上の暗黒を一掃す可きである。
- 八、軍縮問題に關しては從來の總括的比率主義を廢止して國防の安全感を基準とし、守るに足り攻むるに足らざる軍縮を斷行し、建艦競争と巨砲巨艦偏重失貫を無くする處の主張を一貫して特に米國に對し右の趣の國民外交を行ふ可きである。
- 九、日支懸案の解決に努力す可きであり、對支平和工作の方針に則つて寧ろ支那經濟援助を積極的に行ふと共に、支那經濟再組織を積極的に支持す可きである。乍然中央地方何れも其の政極

に對しては不干渉の方針を樹立し、政治性と經濟性は之を峻別すると共に速に蘇聯、と國民政府と我國の間に文化政策、經濟政策の東洋的共通目標を定め、之に必要な政治的協定を爲す可きである。

昭和十一年一月廿七日 印刷納本
昭和十一年一月三十日 發行

【定價十五錢】
送料二錢

複製
不許

日本橋區吳服橋二ノ一山下アーケード
社會大衆黨出版部
編纂發行及
印刷人 平野學

發行所

日本橋區吳服橋二ノ一山下アーケード
社會大衆黨出版部
電話日本橋(24)一〇七八番
振替東京四六六四九番

終



5セン